



# 藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和7年5月1日 校長 竹田 聡

新緑の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、ご多用のところ、4月22日(火)の引渡訓練、4月26日(土)の授業参観・学級懇談会に多数のご参加をいただき、ありがとうございました。

5月は体育祭に向けて、学校全体で取り組みます。今年度は、学級編成の都合で団対抗はございませんが、5人の団長を中心に熱い活動が繰り広げられます。体育祭で大きな成果が上げられるように、ご家庭でもご理解、ご支援をよろしくお願いします。

## <学年保護者会での話>

1年生は入学式後、2,3年生は4月26日(土)の学年保護者全体会で、学校教育目標や目指す生徒像などについて、お話しする機会をいただきました。ただ、短時間であったので、学校便りで補足します。

### 1 学校教育目標について

令和3年度まで藤中学校の学校教育目標は、「ともに学び 心のふれあう学校」でした。私は、学校は、社会で活躍する人を育てる場と考えていますので、校歌の歌詞から、「ともに学び 未来を拓く たくましい生徒の育成」としました。仲間と一緒に学び、自力で未来を切り拓くために、情報化や国際化に対応し、少々の失敗でへこたれない、たくましい人を育てることを目標にしています。また、鶴ヶ島市では、「学び合い」や「ICTの利活用」に取り組んでいますので、市教委から指導助言をいただき、学校教育目標の具現化に取り組んでまいります。

### 2 目指す生徒像について

学校は、知・徳・体のバランスのとれた教育活動がとても大切です。そこで、知・徳・体における目指す生徒像を次のようにしました。

#### (知)よく考え工夫して学ぶ生徒

昭和の高度経済成長期は、日本は欧米より人件費が低く、欧米を参考にして、大きな利益を上げていました。要は、儲かる答えやモデルがあった時代でした。また学力も、一問一答のマークシートに代表されるように、思考力より記憶力を測ることが多くありました。

現代は、IOT(インターネットと接続した物)や、グローバル化が進み、思考力やコミュニケーション能力等が求められています。

学習指導要領に示された学力には、「基礎的・基本的な知識及び技能」、「(身に付けた知識及び技能を活用する)思考力・判断力・表現力」、

「学びに主体的に取り組む態度・人間性等」の3つの要素があります。学習を通して、新たな疑問や課題に気づき、学びに連続性が生じることが大切です。

具体的には、授業で理解して、家庭で定着できるように、時間の使い方やモチベーションの作り方を工夫して、自分に合った学び方を身に付ける姿を期待しています。

#### (徳)人と自分を大切にする生徒

現代はさまざまなハラスメントがあり、「人権感覚の育成」が重要で、人を大切にする社会性はとても大切です。

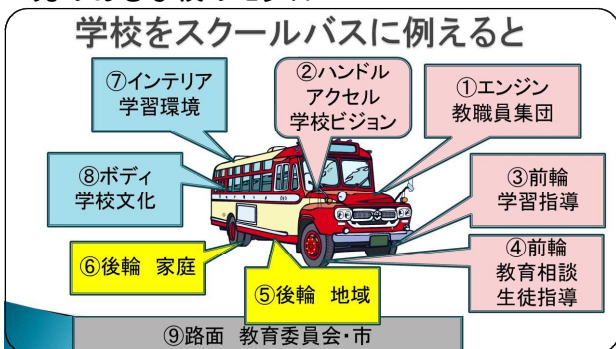
私は、人を大切にするためには、自分も大切にすることが不可欠だと考えています。自分を大切にすることは、自分の健康を自分で整えることだと思えます。端的に言えば、心と体の健康面で、周囲に心配をかけないことです。まず、バランスのよい食事や睡眠を心がけ、疲労を蓄積しないことです。疲労が貯まると傷病のリスクが増すだけでなく、気持ちにも余裕がなくなり、人間関係もギスギスしてきます。自分を大切に、人も大切にできる、ゆとりのある優しさを求めています。

#### (体)心と体を粘り強く鍛える生徒

大リーグで活躍したイチロー選手や活躍している大谷選手がよい例です。向上心を持続し、うまくいかないことや失敗を糧にしています。うまくいなくても、「次は～すればできそう、よくなりそう。」という感覚をつかむことが大切です。大きな目標は、小さな目標達成の積み重ねによって、達成できます。

まずは、目標に向けて行動を起こすことです。結果がよければ継続し、悪ければ改善する。何事もレベルが上がると、速さと正確さが求められます。また、緊張してもできるように、粘り強く鍛える強い心を育ててほしいと思います。

## <力のある学校のモデル>



以前読んだ本に、学校をスクールバスに例えて説明した一節がありました。その本を参考にして、学校・家庭や地域・市が行うことを整理しました。(参考:「一人もみすてへん教育」)

### <学校がすべきこと>

生徒が中学校を卒業した姿を考え、教職員が目的を共有し、授業をはじめ学校生活を通して、指導します。

### <家庭・地域にお願いすること>

学校と目標やビジョンを共有し、地域は学校外の見守りや地域の活動、家庭は規則的な生活や家庭学習の習慣化などがあります。近年は、ネットトラブルの注意も必要です。

### <学びやすい環境>

教育設備などの学習環境と学校の雰囲気や校風も、学校の重要な要素です。

### <走りやすい路面>

学校の教育活動が充実するための指導助言や施設の管理維持が必要です。

### <乗客は生徒>

バスモデルで、大切なのはバスの乗客、すなわち生徒です。年度当初の会議で、私から本校の教職員に次のように伝えました。

バスの運転手は教科担当・学級担任、乗客が生徒と考えてください。バスの定員は40人、座席は、前と後に4、5席ずつ、また配慮が必要な生徒用の優先席があります。前の席には教師と関係が特によい生徒、後の席にはまだ関係ができていない生徒が座ります。優先席は、疲れたり調子が悪かったりする生徒の席で、なるべく座る生徒がいないように努めます。多くの生徒は立っています。とかく、気になる生徒や目立つ生徒に目が行きがちです。でも、円滑な授業やクラスを支えているのは、当たり前のことを当たり前に行っている生徒です。そのことを忘れずに要所要所で、当たり前のことのできている生徒に、感謝したりねぎらったりすることが大切です。

バスの運転手は、安全で乗り心地のよい運転技術とともに、定時運行などが求められます。リピーターが増えるように、指導にあたることを期待しています。

## <生徒朝会 委員長・団長紹介>

4月22日(火)の生徒朝会で、前期委員長と体育祭団長の紹介がありました。

### 前期委員会委員長

学級 1年 2年  
3年

体育 保健

給食 県福祉

図書 放送

体育祭 団分け・団長

	1年	2年	3年	団長
赤団		1組	2組	
桃団	4組		5組	
青団	2組	2組	3組	
黄団	1組	3組	4組	
緑団	3組	4組	1組	

## <藤中学校の部活動について>

5月2日(金)の部活動保護者会に向けて、方針等の概要をお伝えします。

### 1 本校の活動方針

部活動は、生徒の主体性や協調性を育む場です。部活動を充実させるために、授業をしっかりと受け、規則正しい生活をする 것도大切になります。その他にも目標や練習計画づくり、自己管理など将来に役立つ経験を期待しています。

### 2 複数顧問制と活動時間の確保

複数顧問により生徒の活動の機会を確保しています。「鶴ヶ島市部活動ガイドライン」に則り、平日は週4日2時間程度、土日はどちらか休みに なります。ただし、決められた大会(公式大会)前の期間は、例外的に朝練習と土日両日の練習があります。

### 3 過渡期を迎え

部活動は地域移行を含め、過渡期にあります。国や県、市から方針や指導がありましたら、その都度お知らせします。

### 4 自分の心と向き合う

部活を通して学んでほしい体験の一つは「緊張」です。どんなレベルでも、初めての大会では必ず緊張するものです。緊張した状況で力を出す難しさを学び、日々の練習や生活を大切にしたいと思えます。また、部活動の服装に着替えることを通して、気持ちの切り替えも学んでほしいと思えます。

### 5 生涯学習の視点から

私は中学校で始めた卓球を今も続けています。部活動を通して、人間関係をはじめ、多くのことを学び、心身共に成長できたと思えます。

部活動は生徒にとって、中学校を卒業して、社会人あるいは仕事を退職してから、地域の文芸やスポーツとの関わり方を学ぶ機会だと考えています。